

第4回総合計画審議会に係る意見一覧表

項目	資料	意見 (は第4回審議会での意見、 は意見提出シートによるもの)
土地利用構想	第4回審議会 資料 3-1 18ページ	<p>原則として市街地の拡大は行わないということを唐突に書かれると、何故なんだということになる。現在、多くの自治体で原則として市街地の拡大は行わないという方向になっているのは何故かということ、もう少しちゃんと丁寧に書いておかなければいけない。</p> <p>原則として市街地の拡大は行なわず・・・</p> <p>田園地域、中山間地域の地域拠点、生活拠点も今後の人口減、高齢化により、維持が困難となると推定される。拠点なので住宅開発の推進が必要と考えられる。</p>
	同 追加資料 2ページ	<p>頸城区の南川地区に緑の円が記載されていない。(同区の)百間町地区よりも人口が多く、住民の動線は黒井駅、直江津方面、春日新田方面が中心となっている。交通ネットワークづくりで現実的対応をしてほしい。このような事例が他にもあるのではないかと思うので、慎重に検討してもらいたい。</p>
		<p>要望になるが、ほくほく線の場合は、浦川原が一つ核になっているが、例えば大池いこいの森駅とか、頸城駅、犀潟駅が続いており、この地域の賑わいをどうするかということ、鉄道が今後どう維持されるかという非常に重要な問題があるので、その点を検討してもらいたい。</p>
まちづくり重点戦略	第4回審議会 資料 3-2 3-7ページ	<p>重点戦略の3「ご近所の底力の向上」というのは非常に良いと思うが、もう少し膨らませてはどうか。個人、民間、行政よりも地域コミュニティで取組むことが効率的と書いてあるが、担い手はどういう方なのかという時に、例えば消防団など頑張っていたきたい団体を入れてもらうというようなものがあると、この提案は非常に効果がでると思うので、その点を考えてはどうか。</p> <p>現在、世界中で注目されているマイクロファンドのようなものがあるが、経済的な部分のサステナブルというようなことを仕組みとして考える時に、やはりコミュニティが対象になると思うので、そういったコミュニティの単位を考えてもらいたい。</p> <p>そこで、コミュニティビジネスなどと言わないで、上越市版マイクロファンドみたいなものがあればよいのではないかと思う。</p>

7つの基本政策	第4回審議会 資料 3-2 4-11～12 ページ	<p>「地域全体でみんなの安心な生活を支えあうまち」の総論はよいが、地域福祉プランの基本方針になると、非常に行政的言語になり、まさに行政的になってしまう。高齢福祉の充実、障害福祉の充実と表現したら、今までの流れが崩れてしまうのではないか。</p> <p>国が言う、障害者、高齢者の自立支援というのは、彼らが出来ることをまさにきちんと支えるまちづくりである。高齢者参加も障害者参加もちゃんと含まれたまちづくりなんだというメッセージをもう少しふくよかに書けるのではないか。</p>
上越市の現状と課題に関するデータ集	第3回審議会 資料 9 6 ページ	<p>「治安が悪くなった原因」のグラフは一般の方が、一見して、「治安が悪くなった」ことの原因が「在日外国人による犯罪が増えたから」と誤解しかねないので削除したほうがよい。このグラフは、国民がどのように感じているかというものであって、因果関係の事実を示したのではないことから、このグラフ自体が、上越市民の不安をあおったり、上越市の国際交流活動に水を差すことになりかねない。</p> <p>またもう一つのグラフは、犯罪件数は減少しているのに、人々の不安が逆に高まっていることを示したい意図であるなら、タイトルには「意識」の文言を必ず入れる必要がある。(例:「治安に関する社会意識(全国ベース)の変化」)</p> <p>この頁で一番重要なのは「上越市の犯罪認知件数は減少傾向」というタイトルの根拠となるデータを掲載であろうから、「犯罪認知件数の伸び」の折れ線グラフを一番大きく示せばよいのではないか。</p>
	同 14 ページ	<p>「市内小中学生は自己効力感が高い一方、不安傾向も強い」の4つの表は削除したほうがよいのではないか。</p> <p>タイトルの意味も不明であるし、一般の人がこれを見れば、かなりショッキングな印象を受けかねず、「上越市の教育はやっぱり駄目ではないのか」という市民の不安や教育委員会への批判をあおりかねない。今回の総合計画に直接関係するわけではなく、どうしても必要なデータでもないようなので、削除するのが一番適切かと思うがどうか。</p>